第2章 結果の利用上の解説

Chapter 2 Commentary on the Results

1. 用語の解説

がん罹患: がんの診断又は治療をした病院等からの届出並びに市区町村からの死亡者情報票を審査整理し、同一人を名寄せし、同一人において同じがんを集約したもの。

2. 比率の解説

粗罹患率 = ^{年間がん罹患数} 10月1日現在総人口×100,000

※年齢調整罹患率は、人口構成の異なる集団間での罹患率を比較するために、年齢階級別罹患率を一定の基準人口(昭和 60 年モデル日本人口及び世界モデル人口)にあてはめて算出した指標である。

(参考)	基準人口-昭和60年モデル日本人口-			
罹患率や死亡率は年齢によって異なるので、国際比較	年齢	基準人口	年齢	基準人口
や年次推移の観察には、人口の年齢構成の差異を取り	0~4歳	8180000	50~54	7616000
除いて観察するために、年齢調整死亡率を使用するこ	5~9	8338000	55~59	6581000
とが有用である。	10~14	8497000	60~64	5546000
年齢調整罹患率又は死亡率の基準人口については、昭	15~19	8655000	65~69	4511000
和 60 年モデル人口(昭和 60 年国勢調査日本人人口を	20~24	8814000	70~74	3476000
もとに、ベビーブーム等の極端な増減を補正し 1,000	25~29	8972000	75~79	2441000
人単位で作成したもの) を使用している。	30~34	9130000	80~84	1406000
なお、計算式中の「観察集団の各年齢 (年齢階級) の	35~39	9289000	85 歳以上	784000
罹患率又は死亡率」は、1,000 倍されたものである。	40~44	9400000	\$/\\ * /-	190997000
	45~49	8651000	総数	120287000

累積罹患率 = {[観察集団の各年齢(5歳年齢階級)の粗罹患率]×5}の各年齢(5歳年齢階級、0歳から74歳)の総和 1,000

※累積罹患率は、1人がその年齢別罹患率で一定の年齢までにがんに罹る割合に相当する。

年齢階級別罹患率 = <u>観察集団の各年齢(年齢階級)の罹患数</u> × 100,000 その年齢(年齢階級)の人口

MI 比 = $\frac{ \text{人口動態統計に基づく年間がん死亡数}}{\text{年間がん罹患数}}$

※Mortality/Incidence (MI) 比は、死亡統計を完全とし、生存率を一定とした仮定した場合の、罹患数の完全性の指標である。

 ${
m DCI}$ % = $\frac{{
m \emph{E}}$ だ亡情報のみの症例及び遡り調査で「がん」が確認された症例 \times 100 年間がん罹患数

※Death Certificate Initiated (DCI)%は、罹患統計の完全性の指標である。

DCO % = <u>死亡情報のみの症例</u> × 100

※Death Certificate Only (DCO)%は、罹患統計の質の指標である。

 $_{
m MV}$ % = $\frac{{
m 病理学的裏付け(原発巣又は転移巣の組織診若しくは細胞診) のある症例}}{{
m 年間がん罹患数}} imes 100$

※Morphologically Verified (MV)%は、罹患統計の質の指標である。

 $ext{HV } \% = rac{ ext{組織学的裏付け(原発巣又は転移巣の組織診)のある症例}}{ ext{年間がん罹患数}} imes 100$

※Histologically Verified (HV)%は、罹患統計の質の指標である。